

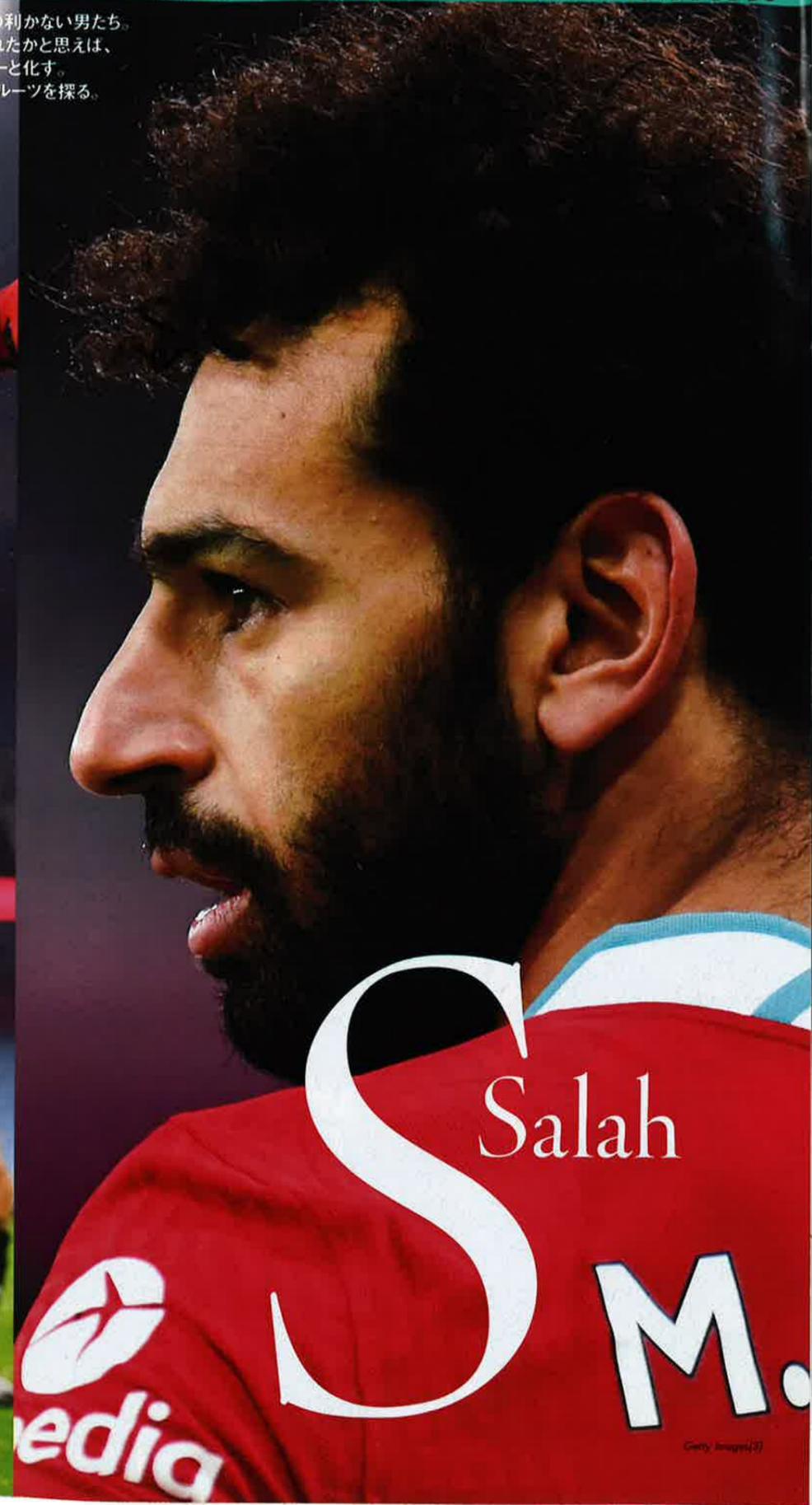
Mané  
**M**



**F**  
Firmino

最強のFACTOR 1 驚異の3トップを徹底解剖。

リバプールの最前線を彩る3人の代えの利かない男たち。  
変幻自在の攻撃で相手ゴールを陥れたかと思えば、  
守備時には、献身的かつ凄猛なハンターと化す。  
 Kloppが創り上げたMFSの最適解とルーツを探る。



Salah  
**S**  
M.

【クロップの右腕が解く】

# モハメド・サラーとMFSの化学反応。

スピード、テクニック、イマジネーション——。すべてを兼ね備えた11番は、単なるストライカーを超えた特別な存在だ。マネ、フィルミーノとの世界最高トリオが奏でる機能性と創造性のキーポイントを、助監督が解説する。

10番マネ、9番フィルミーノ、11番サラーのMFSが誇る攻撃力はプレミアリーグでも屈指



Getty Images

# Mohamed Salah



LIVERPOOL  
You'll Never Walk Alone

アルトゥール・レナール=文  
text by Arthur Renard  
山中忍=翻訳  
translation by Shinobu Yamanaka

スポーツの世界では、苦しい状況の中でこそ、チームとしての本当の強さがわかると言われる。2020-21シーズンのリバプールは、序盤からCB陣をはじめとする主力に怪我の不運が重なった。ホームでの不敗神話に68試合で終止符が打たれたのは、1月後半の19節バーミンガム戦（0-1）。過去3シーズンのプレミアリーグで、合わせて159ゴールを記録した3トップを擁するチームは、リーグ戦での無得点が連続

見せていたウェストハムを下した（3-1）。21節で2得点を上げたモハメド・サラーと、ロベルト・フィルミーノ、サディオ・マネの前線トリオが、計4ゴール2アシストでの2連勝だった。練習メニューの設定を担当するリンダースは、「特異性」をキーポイントに挙げる一方で、「特別に難しいことではない」とも言っている。

7時間を超えてもいた。それでも、ユルゲン・クロップ率いるリバプールの芯はぶれず、信条とする攻守に果敢なサッカーで結果を求め続けている。ドイツ人監督の片腕を務めるベビン・リンダースは、バーミンガム戦の練習グラウンドでも、選手たちの信念と決意は変わっていないと感じ取っていたと言った。「ポイントを絞ったメニューも、最高のインテンシティでこなしてくれていたよ。私たちのアイデンティティにおいて、根本的な要素がインテンシティだとすれば、そのチームを作る上で一番のキーポイントはインテンシティになる」

「インテンシティの高いプレーを継続するには、連動する意識と適切な距離感を保つことが必要で、そのための練習を徹底的に行う。彼らにも、ボール、そして相手選手を意図的に動かすためのポジションナールプレーや、味方の動きに呼応するパターン練習で問題があれば、その場で指摘。互いを意識したムーブメントがなければ、機能性の乏しい、個人の集まりでしかないから」

1992年6月15日、エジプト生まれ。チェルシー、ローマなどを経て17年にリバプールに加入。'17-'18、'18-'19と2季連続プレミアリーグ得点王に輝く。'18年にはアフリカ人選手初のFWA年間最優秀選手賞を受賞。昨年10月リバプール通算100ゴールを達成。175cm、71kg



Getty Images

に前線中央に切り込むスペースを提供する。「ダイレクトなヘッドワーカー」と呼べるマネは、左SBの位置まで追って守備に加勢しつつ、一気のカウンターで敵の最終ライン裏へと快足を飛ばし、サラーが背負う得点面の負担を軽減する。そうした中で、前線でのプレッシングや後方でのセカンドボール獲得に精を出すサラーは、マイボール時には、右サイドから中央に流れてチャンネルに絡むサラーに自己表現の機会が訪れる。リンダースが説明する。

「彼は、タイトなエリアでも俊敏な動きと一瞬の加速で、左足でのシュートや、ラストパスのコースを見出すことに長けた選手。より相手ゴールに近い持ち場に向いているんだ。同時に、そこから解放されるクレーバーなボビー（フィルミーノ）の自由度も増す。私たちに与ったのモー（サラー）は、単なるフィニッシャーやストライカーを遥かに超えた、決定力もずば抜けているプレーメイカーのような存在だ。選手には、敵の意表を突ける直感的なプレーも奨励している。特に、速い、を生むべき前線の3名には。そのために、やはり、味方が作り出してくれるスペースや時間を予期して動くことで、一瞬のひらめきが物をいう状況にいることが大切になる」

チームがあるから成功があると認識しているのが本物のスター！

ウェストハム戦でのサラーの2ゴールが好例だろう。1点目は、手前にGKを含む相手選手4人がいるボックス内で、最小限のテイクバックから正確に、ゴール左上隅に放り込んだ。勝利を確定した2点目は、ゴール正面に届いた山なりのクロスで、右足

での絶妙なコントロールと左足アウトサイドでの巧妙なシュートでものしっている。「フィニッシュは、イマジネーションもテクニックも素晴らしい。難しいチャンスでも、ボールを自分の支配下に収めて決めてみせるからね。そういう選手は他にもいるが、彼のように、それを普通に繰り返せる選手は多くない」

「創造性豊かな真正正銘のタレントが、まずはチームの一員という意識でいてくれ、3トップが、自分たちのサッカーをするためには守備で5、6人をケアする責任もあるのだとわかっていてくれれば、対戦相手からも一目置かれるようなチームになれる。リバプールには、そんな強い一体感がある。だから、次々に困難が生じたとしても、打ち勝っていかないと信じている」

2月7日、アンフィールドでの23節で実現した首位との対決で、リバプールはマンチェスター・シティに敗れた（1-4）。シティとの差は10ポイントに開き、現実目標がプレミア王座防衛からトップ4フィニッシュに変わったとの見方が強まる結果となった。しかし、サラーが自ら奪ったPKをゴール上段に決めて一度は追いつき、ホームでの連続無得点には4試合目で終止符が打たれた。右インサイドから侵入したサラーが倒された場面では、中央にフィルミーノ、ファーサイドにはマネも詰めていた。3トップがチームの一体感を体現するリバプールは、今こそ本当の強さが試される。

サラーは今シーズンもリーグ戦23節時点で16ゴールと得点ランクトップを走っている。